

I 調査方針

1. 調査目的

南阿蘇地域の基幹交通を担う南阿蘇鉄道(株)は、国鉄改革に伴い昭和 61 年に第三セクター鉄道として立野駅～高森駅間(17.7km)の運行を開始したが、過疎化・少子高齢化の進展等の影響により利用者が過去 5 年間で 10%以上減少して毎年度赤字となっており、基金を取り崩して対応している状況にある。

また、熊本県では平成 22 年度末の九州新幹線の全線完成を見据えた「新幹線くまもと創りプロジェクト」において、阿蘇地域にあっても新幹線駅と阿蘇地域を結ぶ公共交通機関による二次アクセス又は三次アクセスの充実が課題と位置付けている。

こういったなか、鉄道駅やモードインターチェンジで適宜走行モードを切り替えることで、道路上を走行できる新交通システムである「デュアル・モード・ビークル(DMV)」の研究・開発が進められており、実用化されれば鉄道からバスへの乗り換えなしに各観光地へ直接アクセスすることが可能となるため、利便性が向上し、生活交通の利便性向上はもとより観光客の増加、ひいては地域経済の活性化が期待できる。

このようなことを踏まえ、南阿蘇鉄道(株)における DMV 導入の条件や問題点の整理・検討を行うとともに、実証実験の実施に向けた計画を作成することを目的に検討を行う。

また、次年度以降に実施を見込む実証実験においては、DMV の導入による南阿蘇鉄道の持続可能なスキームの構築、沿線活性化等の効果を測定することを視野に入れて、本調査を実施するものである。

2. 調査フロー

